

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「開発創造※和衷敬愛※質実剛健」の建学の精神のもとに「生徒の望む進路を実現する学校」をめざしていく。
 育てたい生徒像：(開発創造)自分で創意工夫でき、(和衷敬愛)おだやかで思いやりをもって人に接することができ、(質実剛健)自分を律し社会に貢献でき、
 勇気を持って新しいことに取り組もうとする生徒を育てる。
 重点課題：自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力の育成

2 中期的目標

1 生徒の学力を高め、進路を保障

(1) 学習における自律精神の育成

ア 規範意識を高め、挑戦する心の育成

※授業遅刻の減少 (H30:2950、2019:2900、2020:2850) (H29:2962)、生徒指導の徹底 (化粧、標準服のスカート丈の重点指導)、教育相談等サポートの充実 (ケース会議の定期開催)

イ 学習意欲の向上と継続した学習の推進

※「総合的な学習の時間」の充実 (基礎学力定着の取組み)

※進路指導の充実 (進路マニュアルに沿った統一的な指導、成績データベースを基にした成績個票を使った個人面談の実施)

※授業アンケート「1 生徒取組」(授業内容について必要な予習や復習ができている)の学校平均を H30:2.82、2019:2.83、2020:2.84 にする (H29:2.81)

同じく「5 教材活用」(先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている)の学校平均を H30:3.19、2019:3.20、2020:3.21 にする (H29:3.18)

(2) 国際交流の推進

ア 多様性を理解し、コミュニケーションの機会を増加させる

※自己表現力の向上のため、文化祭、体育祭、学校説明会等での発表機会を増やす

※修学旅行、福祉体験、交流学习等体験学習の充実

イ 国際交流を通して刺激を受け学習意欲を高める

※在校生の国際交流：韓国、台湾、ニュージーランドの姉妹校への語学研修派遣、及び、姉妹校の受け入れによる相互交流

※ニュージーランド姉妹校との交換留学を継続し、台湾姉妹校との交換留学を短期から始める

※台湾姉妹校との周年行事を通じた交流を進める

※卒業生の国際交流：台湾、ニュージーランドの姉妹校に卒業生を日本語アシスタントとして派遣

※英語アシスタントの受け入れ：ニュージーランドから卒業生を英語のアシスタントとして受け入れる

※英検受験者を H30:210 人、2019:215 人、2020:220 人にする (H29:206 人)

※第2 外国語としての中国語、韓国・朝鮮語の資格試験受験者の増加

※地域の国際関連施設と語学を通じた連携を進める

※学校教育自己診断 (生徒)「国際交流を行う機会が多い」を H30:96%、2019:97%、2020:98%にする (H29:95%)

(3) 進路保障の充実

ア 希望進路の実現をめざした学力の育成

※コースを基本原則としたクラス編成の実施

※進路実現に向けた計画的な講習や学力生活実態調査結果の解説会の実施

※アジア太平洋コース選択者の増加

イ 国公立関関同立産近甲龍への現役合格者数を H30:70 人、2019:80 人、2020:90 人にする (H29:56 人)

※「教員が統一して行う学習指導」の内容を教科ごと、学年ごと、担任団で決めて実践する

※学校教育自己診断 (生徒)「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」を H30:72%、2019:73%、2020:74%にする (H29:71%)

同じく「コース選択や進路について先生に相談が十分にでき、情報も十分に与えてくれている」を H30:82%、2019:83%、2020:84%にする (H29:81%)

※スタディマラソン (夏期)での卒業生の協力 (学習支援、講話等)の充実

2 自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力を高め、充実した学校生活

(1) 生徒会活動、部活動の活性化

ア 生徒会執行部の育成

※管理職との情報交換会を年3回実施し、生徒会から聞いた要望の実現をめざす

※学校教育自己診断 (生徒)「生徒会活動は活発である」を H30:84%、2019:85%、2020:86%にする (H29:83%)

イ 部活動の更なる充実

※学校教育自己診断 (生徒)「部活動は活発である」を H30:83%、2019:84%、2020:85%にする (H29:82%)

(2) 体験活動の重視

ア 生徒の達成感の向上をはかり、自尊感情※自律心※共生の精神を育む

※中学校等や近隣施設との交流推進

学校教育自己診断 (生徒)「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」を H30:48%、2019:49%、2020:50%にする (H29:47%)

※学校行事の充実

学校教育自己診断 (生徒)「文化祭が楽しい」を H30:91%、2019:92%、2020:93%にする (H29:90%)

学校教育自己診断 (生徒)「体育祭が楽しい」を H30:85%、2019:86%、2020:87%にする (H29:84%)

3 教員の指導力を高め、良き教育環境作り

(1) 教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成

ア 授業力の向上（観点別シラバスに沿った、わかりやすい授業をめざす）

※校内授業見学会・校外授業研修の参加者増加、小学校及び中学校への視察者増加

※学力生活実態調査の結果を分析し授業に活かす（学力生活実態調査事業者も入った分析会を学年対象と教科対象の2部構成で実施）

※学校教育自己診断（生徒）「教え方に工夫があり、わかりやすい授業が多い」を H30:51%、2019:52%、2020:53%にする（H29:50%）

※授業アンケート「8・9授業に関する生徒の意識」（8授業内容に、興味※関心を持つことができたと感じている、9授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。）の学校平均を H30:3.02、2019:3.03、2020:3.04にする（H29:3.01）

イ ICTを利用した授業、グループ学習、発表（伝える）能力育成をめざす授業の推進

※ICTを利用した授業の増加

※学校教育自己診断（生徒）「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」を H30:70%、2019:71%、2020:72%にする（H29:69%）

※授業アンケート「6授業展開」（先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい）を H30:3.20、2019:3.21、2020:3.22にする（H29:3.19）

(2) 教職員が相互理解を深め信頼関係を高める

ア 情報共有の場としての拡大学年会議の実施

イ 人権教育推進委員会の充実（いじめの未然防止と早期発見の取組み強化）

ウ 総括職員会議の充実（総括・目標達成の検証・計画の改善を行う）

エ 学習環境を整えるための統一した生活指導の推進

※学校教育自己診断（教職員）「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」を H30:54%、2019:55%、2019:56%にする（H29:53%）

オ 安全衛生委員会の充実（「働き方改革」への取組み強化）

(3) 校舎等修繕の計画的な実施

※学校教育自己診断（生徒）「学校の施設や設備等が壊れたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる」を H30:53%、2019:54%、2020:55%にする（H29:52%）

4 保護者・地域との関係強化

(1) 保護者・地域との連携を深める

ア 国際交流事業への保護者や地域の方の参加及び協力を求め続ける

イ 地域連携行事への参加と協力を進める

ウ 地域の小学校・中学校・支援学校及び大学との交流を進める

エ 自転車マナー指導やクリーンキャンペーン等でのPTAや地域との連携の充実

(2) 学校情報の更なる発信

ア 学校ホームページを使った情報発信を強化する

イ メールマガジンの発行を継続する

ウ 学校説明会で生徒が活躍する場面の充実

※学校で実施する5回の学校説明会の参加者を増加する（H30:1480人、2019:1490人、2019:1500人）（H29:1472人）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>I 今年度、学校教育自己診断の項目を改定した。具体的には、①同じような項目は統合し、項目数を削減 ②実情を知らないから答えにくい項目は削除 ③より答えやすいように聞き方を修正 の3点である。そして、回収率も100%をめざした。その結果、生徒 H29:97.3%→H30:99.8%、保護者 H29:58%→H30:90.4%、教職員 H29:78%→H30:100%となり、アンケート結果が実態を反映する精度は高まったと考えられる。</p> <p>次の5つの観点の主な項目について、昨年度との変化を踏まえ、生徒と保護者の肯定的回答に対する「認識と今後の課題」(*)を記すが、今年度修正した項目の比較は昨年度の同様の項目を比較対象とした。</p> <p>■学校への満足度</p> <p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」83%→79%→低下 ・「阪南高校に入学してきてよかった」89%→83%→低下 ・「阪南高校には他の学校にない特色がある」84%→「阪南高校には他の学校にない特色があり、工夫された選択科目や自分の学びに合っている」64%→低下 <p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」87%→83%→低下 ・「阪南高校に入学させてよかった」92%→89%→低下 ・「学校は家庭への連絡や意思疎通をしっかりと行っている」79%→68%→低下 <p>*生徒も保護者も学校への満足度が低下しています。担任が感じている生徒の思いや考えを全体で共有して、それを参考に低下の理由を分析して改善のヒントを探るとともに、新カリでの選択科目設定の仕方や災害時の連絡方法について改善に努めます。</p>	<p>第1回 (7/6)</p> <p>○H30 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学実績が上がるよう、一般入試まで頑張らせる等の気持ちを教員で共有して進路保障に力を入れてほしい。 ・アクティブラーニングやICTの活用により生徒の興味を高め学力向上につなげてほしい。 ・すでに導入している学力生活実態調査等の外部テストの結果を学力向上につなげてほしい。 ・災害時の休校判断を早くしてほしい。 ・部活動の入部率（全体で65%~70%）を高めてほしい。 <p>第2回 (11/5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業アンケートの数値が昨年度より低下している。入学してくる生徒の変化に合わせて授業のやり方も変化が必要である。 ・英検の受験者が減っている。学校全体で受験を促す体制づくりが必要である。 ・進学実績を伸ばすには大学入試センター試験の受験者の増加が必要である。どのようにして大学入試センター試験の受験者を増やすのか検討してほしい。 ・自転車マナーの悪さが気にかかるので、改善に努めてほしい。 ・日直を廃止したとのことだが、引き続き時間外労働の削減に取り組んでほしい。 <p>第3回 (1/29)</p> <p>○授業アンケートの結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のニーズに合った授業改善が求められているのではないかと。 ・授業がおもしろい、受けてみたいと生徒が思うことが大事。これからも授業改革を続けてほしい。 ・補習や講習を生徒から「してほしい」と言ってくるような雰囲気づくりも有効である。 <p>○学校教育自己診断の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率が100%になり実態に近い数字が出ていると思う。数字のみにとらわれることなく、

■学習指導等

〔生徒〕

- ・「教え方に工夫があり、わかりやすい授業が多い」50%→46%へ低下
- ・「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」71%→67%へ低下
- ・「授業中生徒の質問や疑問にわかりやすく対応してくれる先生が多い」79%→「生徒の質問や疑問にわかりやすく対応してくれる先生が多い」71%へ低下

〔保護者〕

- ・「子どもは教え方に工夫があり、わかりやすい授業が多いと言っている」48%→「授業中に生徒の質問や疑問にわかりやすく対応してくれる先生が多い」66%へ上昇
- ・「子どもは学校の授業・講習で進路志望達成に必要な力がつくといっている」60%→54%へ低下

*生徒も保護者も学習指導への満足度が低下しています。授業見学、その後の研究協議の継続実施とそれらへの参加者を増やしていき、学校全体として「わかりやすい授業の増加」に努めます。その結果として、将来構想委員会で行った「生徒生活実態調査」で見られた“少ない家庭学習時間”の増加をめざします。

■生徒指導等

〔生徒〕

- ・「学校生活についての先生の指導には納得できる」69%→57%へ低下
- ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」85%→74%へ低下
- ・「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」76%→71%へ低下

〔保護者〕

- ・「学校の生徒指導の方針に納得できる」82%→「学校生活についての先生の指導には納得できる」75%へ低下
- ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」68%→63%へ低下
- ・「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」73%→72%へ低下

*生徒も保護者も生徒指導への満足度が低下しています。生徒指導の理由と目的を生徒にわかりやすく説明するとともに、生徒に対する多面的で共感的な理解をさらに深めること、及び全教職員が一層連携して生徒指導にあたる体制の構築に努めます。

■進路指導等

〔生徒〕

- ・「コース選択や進路について先生に相談が十分にでき、情報も十分に与えてくれている」81%→72%へ低下
- ・「将来の進路や生き方を考える機会がある」89%→78%へ低下

〔保護者〕

- ・「コース選択や進路について先生に相談が十分にでき、情報も十分に与えてくれている」66%（H30 新たな質問）
- ・「ホームルーム等で将来の進路や生き方を考える機会が多い」72%→「ホームルーム・総合的な学習の時間の活動は活発である」69%へ低下

*生徒も保護者も進路指導への満足度が低下しています。コース選択や進路相談にわかりやすく応えられるよう知識をさらに増やすこと、「進路マニュアル」に沿った指導を教員が共通して取ること、生き方を考えるHRを充実させることに努めます。

■学習環境等

〔生徒〕

- ・「校舎、教室、特別教室、自習室、運動場等の施設や設備はよく整備されている」53%、「学校の施設や設備等が壊れたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる」52%→「学校の施設や設備などは清掃など環境整備がいきとどいていており気持ちよく生活できる」36%へ低下

〔保護者〕

- ・「教室、特別教室、自習室、運動場などの施設や設備はよく整備されている」55%、「学校の施設や設備がこわれたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる」60%→「学校の施設や設備などは清掃など環境整備がいきとどいていており気持ちよく生活できる」50%へ低下

*生徒も保護者も進路指導への満足度が低下していますが、災害被害や故障個所の修繕にはできる限り努めてきました。今後もできる修繕等はできるだけ早く、予算獲得の必要性のあるものは計画的に整備を進め、安全・安心な学習環境の整備に努めます。

そのバックグラウンドを分析して改革に取り組んでほしい。

- ・SSWを導入することだが、高校生が心を開いてSSWに話をしてくれるように持っていくことが大切である。
 - ・学校でも先生方の多岐に渡る業務の改善に取り組んでいるが、効果が表れているとは言い難い。今後も、業務の整理をしながら働き方改革が必要である。
- H30 学校経営計画評価（案）及びH31 学校経営計画（案）について
- ・授業アンケート、学校教育自己診断、生徒生活実態調査から生徒分析を行い、生徒に目的意識を持たせて勉強に励ませてほしい。
 - ・他校の文化祭や体育祭を見に行き刺激を受けてくることも行事改善につながるのではないか。
 - ・平成31年度学校経営計画及び評価の「1 めざす学校像」と「2 中期的目標」は承認する。

<p>II 教職員回答の主な項目について、昨年度との変化を踏まえ、肯定的回答に対する認識と今後の課題（*）を記します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している」91%→「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるように、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で工夫・改善に取り組んでいる」78%へ低下 ・「本校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている」77%→64%へ低下 ・「職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」45%→「職員会議等の会議が、相互連携のために行われ、情報交換と課題検討の場として円滑で有効に機能している」38%へ低下 <p>*教職員間の対話と連携は低下しました。一つの案に対する意見交換の開始日と終了日を示したスケジュールを共有し、限られた時間で密度の濃い議論を行うことを通して、「生徒の成長」に全教職員が一丸となって取り組めるよう風通しの良い職場づくりに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教科として、積極的に教科目標・指導内容・進捗等について点検・検討する機会をもっている」70%、「教科として、生徒の実態を踏まえ、常に指導方法・評価方法の工夫・改善を行っている」82%→「教科として、積極的に教科目標・指導内容・進捗等について点検・検討する機会を持ち、生徒の実態を踏まえ、常に指導方法・評価方法の工夫・改善を行っている」60% <p>*学力生活実態調査と授業アンケートの結果を元にした指導方法改善のための教科会議の一層の充実に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」74%→80%へ上昇 <p>*できる限り100%に近づくよう体制づくりに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校案内のHPやリーフレット、学校訪問、説明会など広報活動を積極的に行っている」80%→「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」73%へ低下 <p>*HPによる情報発信を強化するとともに、広報活動が効果的・効率的となるよう改善を進めます。</p>	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の学力を高め、進路を保障	<p>(1) 学習における自律精神の育成 イ 学習意欲の向上と継続した学習の推進</p> <p>(2) 生徒参加型の国際交流 イ 国際交流を通して、グローバルな視点から生き方を学び、積極的な人生をめざす</p> <p>(3) 進路保障の充実 ア 希望進路の実現をめざした学力の育成 イ 国公立関関同立産近甲龍への現役合格者数の増加</p>	<p>(1) イ・将来構想委員会による基礎学力充実をめざした取組みを継続する ・進路マニュアルに沿った統一的な指導を実施する ・成績データベースを基にした成績個票を使った個人面談を実施する</p> <p>(2) イ・交流受け入れ時における本校生徒と外国生徒の交流機会の充実を図る ・語学研修派遣後に学年ごとの集会で発表を行い、語学研修の魅力をアピールする ・新入生及び在校生の保護者へ外国生徒のホームステイ家庭としての協力をアピールする</p> <p>(3) ア・1年次・2年次のコース選択オリエンテーションの内容とその後の個別相談を充実する イ・3年間を見通した講習計画を作成するとともに、共通の教材を使用する</p>	<p>(1) イ・授業アンケート「1生徒取組」（授業内容について、必要な予習や復習ができている）の学校平均を2.82以上にする（H29：2.81） ・授業アンケート「5教材活用」（先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている）の学校平均を3.19以上にする（H29：3.18）</p> <p>(2) イ・学校教育自己診断（生徒）「国際交流を行う機会が多い」を96%以上にする（H29：95%） ・3カ国への語学研修希望者を45人以上にする（H29：44人） ・ホームステイ引受家庭数を24家庭以上にする（H29：23家庭）</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断（生徒）「コース選択や進路について先生に相談が十分でき、情報も十分与えてくれている」を82%以上にする（H29：81%）</p>	<p>(1) イ・授業アンケート「1生徒取組」（授業内容について、必要な予習や復習ができている）の学校平均は2.79であり目標を0.03下回った（△） ・授業アンケート「5教材活用」（先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている）の学校平均は3.09あり目標を0.1下回った（△） 次年度は「受けることが楽しみな授業」の増加をめざし、パッケージ研修を継続していく。</p> <p>(2) イ・学校教育自己診断（生徒）「国際交流を行う機会が多い」は97%で目標を1%上回った（○）。 ・3カ国への語学研修希望者は39人で目標を5人下回った（△） ・ホームステイ引受家庭数は29家庭で目標を5家庭上回った（○） 次年度は国際交流の事前説明会と事後報告会に力を入れ、関心を持つ生徒を一層増やしたい。</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断（生徒）「コース選択や進路について先生に相談が十分でき、情報も十分与えてくれている」は72%で目標を10%下回った（△） 次年度は全担任が同じ内容を同じトーンで伝えられるよう事前の学習会を充</p>

府立阪南高等学校

			イ・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」を72%以上にする（H29：71%）	実していく。 イ・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」67%で目標を5%下回った（△） 次年度も引き続き授業改善に努めるとともに、進路指導部が主導して3年間を見通した系統的な講習の実施をめざす。
2 生徒の活力を高め充実した学校生活	<p>(1) 生徒会活動、部活動の活性化 ア 生徒会執行部の育成 イ 部活動のさらなる充実</p> <p>(2) 体験活動の重視 ア 学校や施設との交流の推進 イ 学校行事の充実</p>	<p>(1) ア・文化祭での舞台発表の数を増やすための方策を生徒会執行部が作り上げるよう支援する イ・中学生が参加できるクラブ体験日を設け、入学後の入部につなげる</p> <p>(2) ア・幼稚園・保育園や国際関連施設との交流を進める イ・生徒が自主的に運営する学校行事となるよう指導及び支援に力を入れる</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動が活発」を84%以上にする（H29:83%）</p> <p>イ・学校教育自己診断（生徒）「部活動が活発である」を83%以上にする（H29:82%）</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」48%以上にする（H29:47%）</p> <p>イ・学校教育自己診断（生徒）「文化祭は楽しく行えるように工夫されている」を91%以上にする（H29:90%） ・学校教育自己診断（生徒）「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」85%以上にする（H29:84%）</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動が活発」は80%で目標を4%下回った（△）。 次年度は体育祭、文化祭の準備での生徒会執行部の活動が生徒に見えるように情報提供を密にしていく。 イ・学校教育自己診断（生徒）「部活動が活発である」は84%で目標を1%上回った（○） 次年度もオープンスクールのクラブ体験で部活を一層アピールして新入生の入部率を高めたい。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」は37%で目標を11%下回った（△）。 次年度は部活動や生徒会執行部での他校生との交流機会を増やしていきたい。 イ・学校教育自己診断（生徒）「文化祭は楽しく行えるように工夫されている」は77%で目標を14%下回った（△） ・学校教育自己診断（生徒）「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」は74%で目標を11%下回った（△） 次年度は生徒の思いや考えを生徒会執行部を中心に察知して、これまで以上にみんなで作り上げる体育祭をめざしたい。</p>

府立阪南高等学校

<p style="text-align: center;">3 教員の指導力を高め 良き教育環境作り</p>	<p>(1) 教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成 ア 授業力の向上 イ ICT を利用した授業 (2) 教職員が相互理解を深め信頼関係を構築 ア 情報共有の場としての拡大学年会議の実施 イ 人権教育推進委員会の充実(いじめの未然防止と早期発見に一層取り組む) ウ 総括職員会議の充実 オ 安全衛生委員会の充実(「働き方改革」への取り組み強化) (3) 校舎等修繕の計画的な実施</p>	<p>(1) ア・校内授業見学会、校外授業研修、小学校及び中学校への視察、これらの参加を勧める ・学力生活実態調査の分析会を担任対象と教科対象の2部構成にする (2) ア・拡大学年会議を定期開催する イ・SNS を使ったいじめを未然防止するためのLHR 計画の作成と実施内容の保護者への周知 ウ・年間総括、目標達成の検証、計画の改善を行う オ・「働き方改革」の具体的な取組みを2学期までに実施 (3) 教職員等による点検を定期的実施し必要な修繕を行う</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「わかりやすい授業が多い」を51%以上にする(H29:50%) ・校内授業見学会の見学件数をH29より増やす(H29:19件) ・校外での授業研修の参加者をH29より増やす(H29:7人) ・小学校及び中学校への視察人数をH29より増やす(H29:3人) ・授業アンケート「8・9授業に関する生徒の意識」(8授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている、9授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。)の学校平均を3.02以上にする(H29:3.01) イ・学校教育自己診断(生徒)「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」を70%以上にする(H29:69%) (2) ア・学校教育自己診断(教職員)「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」を54%以上にする(H29:53%) イ・SNS を使ったいじめを未然防止するためのLHR を各学年で年1回実施し、実施内容を保護者へ文書で知らせる ウ・学校教育自己診断(教職員)「教科として、積極的に教科目標・指導内容・進捗等について点検・検討する機会をもっている」を71%以上にする(H29:70%) オ・日直等の定例業務の内容の見直しを行う (3) 学校教育自己診断(生徒)「学校の施設や設備等が壊れたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる」を53%以上にする(H29:52%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「わかりやすい授業が多い」は46%で目標を5%下回った(△) ・校内授業見学会の見学件数は15件で目標を5件下回った(△) ・校外での授業研修の参加者は9人で目標を2人上回った(○) ・高校及び小学校を視察した人数は9人で目標を6人上回った(◎) ・授業アンケート「8・9授業に関する生徒の意識」(8授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている、9授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。)の学校平均は2.97であり目標を0.05下回った(△) 次年度は授業力向上への機運がさらに高まるよう、小中高への授業見学の参加者を増やしていく。 イ・学校教育自己診断(生徒)「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」は74%で目標を4%上回った(○)。 次年度はICT を使った授業の見学機会を増やし、更なる授業力向上に努める。 (2) ア・学校教育自己診断(教職員)「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」は38%で目標を16%下回った(△)。 毎日、職員室のどこかで、数名が生徒の話題で対話が行われている職員室づくりに努める。 イ・HR 単位での指導がある新たな計画の作成には至らなかった(△) ウ・学校教育自己診断(教職員)「教科として、積極的に教科目標・指導内容・進捗等について点検・検討する機会を持ち、生徒の実態を踏まえ、常に指導方法・評価方法の工夫・改善を行っている」(改定後)は60%で目標を11%下回った(△)。 授業アンケートの結果を科目担当者同士で話し合い、生徒の学習の弱点について分析が行われるよう働きかける。 オ・授業期間、長期休業期間の日直を廃止した。 (3) 学校教育自己診断(生徒)「学校の施設や設備などは清掃など環境整備がいきとどいており気持ちよく生活できる」(改定後)は36%で目標を17%下回った(△)。</p>
---	---	--	---	---

府立阪南高等学校

<p>4 保護者・地域力との関係強化</p>	<p>4 (1) 保護者・地域との連携を深める ア 国際交流事業への保護者や地域の方の参加及び協力を求め続ける イ 地域連携行事への参加と協力を進める ウ 地域の小学校・中学校、及び、近隣の大学との交流を進める (2) 学校情報の更なる発信 ア 学校ホームページを使った情報発信を強化する ウ 学校説明会で生徒が活躍する場面の充実</p>	<p>(1) ア・英語講座を継続し、韓国語講座を再開する イ・近隣の国際関連施設との交流(阪南プチ留学)を年2回実施する ウ・地元の小中支援学校にニュージーランドの姉妹校から来たネイティブを派遣する (2) ア・校長ブログの継続 ウ・学校説明会で生徒による案内、演奏(校歌紹介)、司会、説明を実施する</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(保護者)「PTA活動は活発である」を78%にする(H29:77%) イ・阪南プチ留学の参加者を増やす(H29:16人) ウ・派遣日数を合計26日にする(H29:25日) (2) ア・月4回以上の更新 ウ・学校説明会への参加者を1480人にする(H29:1472人)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(保護者)「PTA活動は活発である」は67%で目標を11%下回った(△) イ・阪南プチ留学の参加者は17人であり目標を1人上回った(○) ウ・派遣日数は合計28日で目標を2日上回った(○) 次年度は文化祭バザー等PTAに協力いただいている取組みのPR強化に努める。また、姉妹校から来たネイティブの地域への派遣を継続するとともに、阪南プチ留学の回数を増やしたい(H30は2回予定が1回しかできなかった)。 (2) ア・平均して月4回以上の更新はできなかった(△) ウ・学校説明会への参加者は1430人で目標を50人下回った(△) 次年度も校外での学校説明会では本校の特色である「国際交流」を積極的にアピールして校内の学校説明会への参加者を増やしたい。</p>
----------------------------	---	---	---	--